

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成26年度兵庫県農業気象技術情報第5号(9月情報)について(送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県 共通	<p>1 生育状況</p> <p>県北部の極早生品種の出穂期は、フクヒカリ、コシヒカリはほぼ平年並み。平年よりも茎数が多い。</p> <p>県南部における出穂期は、極早生品種のキヌヒカリは平年並み、中生品種のヒノヒカリ、晩生品種の山田錦も平年並みの見込みである。</p> <p>成熟期も平年並みと考えられる。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1)穂いもちについては7月16日付けで防除情報を発表したところであり、平年並みの発生と予想される。しかし、向こう1か月の気温はやや低く、降水量は平年並みと予想されており、葉いもちの目立った圃場、多肥により葉色の濃い圃場、山間部の日照の少ない圃場などでは発生がやや多くなると予想される。</p> <p>(2)紋枯病は現在少ない発生である。しかし、気象条件により、急激に病勢進展する可能性があり、普通期においては注意が必要である。向こう1か月の気温はやや低く、降水量は平年並みと予想されており、発生は平年よりやや少ない発生で推移すると思われる。</p> <p>(3)県下各地でトビイロウンカの発生が確認されている。ウンカ飛来予測システム(JPP-NET)によると、7月上～中旬に飛来波</p>	<p>1 生育状況</p> <p>落水まではできるだけ飽水管理に努める。水が少ない場合は走り水でも良い。圃場の乾燥状況に注意して、収穫作業に支障のない限り、落水時期は刈り取り7日前を目安とする。</p> <p>適期刈り取りを行う。適期刈り取りの目安は、稔実もみの85%(山田錦は90%)が黄化したときである。特に極早生品種は胴割れ防止のため、玄米水分の低下に留意し、刈り遅れに注意する。穂揃いが良くなかったり、不稔穂が見受けられるので、正常穂で黄化もみ率を判定すること。</p> <p>極早生品種、特にコシヒカリでは茎数が多く、今後の天候次第では、倒伏程度が高まることが懸念される。稲が地際から倒れそうな田は刈り分けや早めの収穫を行う。</p> <p>乾燥にあたっては必ず水分チェックを行い、急激な乾燥は避ける。</p> <p>外気温が高いとき、乾燥設定温度が低いと、乾燥時間が長引いて、品質が低下することがある。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1)圃場及び周辺圃場をよく見回り、発生状況を確認する。すでに葉いもち病斑がある場合は、箱施用剤の効果は既にないので、穂へ感染する可能性が高く、十分に注意が必要である。防除は、薬剤の種類と散布時期に注意する。</p> <p>(2)圃場をよく見回り、適宜農薬散布を行う。また、多発圃場では早めに秋すきを行い、越冬菌核の減少を図る。</p> <p>(3)収穫期が10月以降になる作型(ヒノヒカリ・山田錦等)や無防除圃場においては、坪枯れが生じる可能性が高い。8月下旬～9月上旬における本虫の密度が</p>

		<p>が認められており、広い地域に飛来があったと考えられる。8月中旬に短翅型成虫（飛来後第1世代）の発生が認められており、8月下旬以降には広域で第2世代虫が発生している。その後、第3世代虫が9月下旬頃に多発し、「坪枯れ」を引き起こすおそれがある。</p> <p>(4)斑点米カメムシ類の発生は、現在、平年並みの発生であるが、予察灯およびフェロモントラップへの誘殺も増加が見られ始めている。向こう1か月の気温はやや低いと予想されており、本虫の発生は平年並みと予想される。</p>	<p>要防除水準（成・幼虫5頭/株）を超える場合は速やかに防除を実施すること。</p> <p>(4)斑点米カメムシ類は、穂揃期に防除を徹底して行う。ヒエの穂やホタルイの小穂が発生源となるので、特にヒエやホタルイの発生圃場は防除を行う。</p>
大豆	全県共通	<p>1 生育状況 梅雨明け以降は局地的な豪雨や台風で雨や曇天が多く、大豆が冠水した圃場もある。黒大豆は日照不足による着莢低下が懸念される。</p> <p>2 病害虫 (1)9月に入り気温が低下し、降雨が増加すると茎疫病、黒根腐病の発生が増加する可能性がある。特に台風等で冠水した圃場では注意が必要である。</p> <p>(2)フタスジヒメハムシの発生はやや少なく、今後もやや少ないと予想される。</p> <p>(3)カメムシ類の発生はやや少ないが、今後、平年並みで推移すると予想される。</p> <p>(4)ハスモンヨトウはやや少ない発生であるが、今後、平年並みの発生になると予想される。</p>	<p>1 生育状況 降雨後の滞水がないように、圃場の排水を良くする。生育旺盛な圃場は倒伏に注意する。</p> <p>2 病害虫 (1)圃場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。大豆が冠水した圃場は殺菌剤を散布し、病気の予防に努める。</p> <p>(2)圃場をよく観察し、必要に応じて薬剤散布を適切に実施する。</p> <p>(3)ダイズの生育が進み、開花・着莢期を迎えると、莢の吸汁に飛来するカメムシ類の発生状況を注視し、適期に防除を実施する。</p> <p>(4)圃場を良く観察し、ハスモンヨトウによる白変葉の発生には注意をはらい、薬剤散布を適切に実施する。</p>
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理 (1)ゲリラ的豪雨が頻発しており冠水や降雨に伴う作業遅れが予想される。</p> <p>(2)定植後、降雨がない場合は、灌水不足による活着や生育不良が懸念されるため、欠株の防止が必要である。</p> <p>2 病害虫 (1)ハイマダラノメイガの発生はやや少ないが、今後、平年並みで推移すると予想される。</p> <p>(2)ハスモンヨトウの発生はやや少ないが、今後、平年並みで推移すると予想される。</p>	<p>1 栽培管理 (1)週間予報などを参考に作業計画を立てる。排水溝の点検を常に行い、特に台風や大雨の前には溝をさらしておく。冠水時は早期の排水に努める。</p> <p>(2)定植後は、灌水チューブ等で十分灌水し、活着と初期生育を促進させる。乾燥時の深い中耕は、土壌の乾燥を助長するので浅目に行う。</p> <p>2 病害虫 (1)キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害は被害が大きいため、不織布や寒冷紗などにより本虫の飛来を避ける。</p> <p>(2)圃場をよく観察し、薬剤散布は農薬使用基準を遵守し実施する。</p>

果樹	全県 共通	<p>1 生育</p> <p>(1)適度な土壌水分を維持する。</p> <p>(2)適期収穫に努める。</p> <p>(3)樹種や樹勢に応じた収穫後の管理に努める。</p> <p>樹種別の生育状況</p> <p>クリ：8月の低温により、早生の成熟期は平年比で1週間程度前進し、果実肥大は不良。低温傾向が続くと中生以降の成熟期も早まる見込み。天候不良による裂果、腐敗果の発生がみられる。</p> <p>ブドウ：8月の低温、日照不足により、成熟期は遅れる傾向。着色や減酸は不良で、裂果、病害の発生も目立つ。</p> <p>ナシ（青ナシ）：生育は順調で熟期はやや早い、8月以降の降水量がきわめて多いため、糖度はやや低い。</p> <p>イチジク：生育は平年並みもしくははやや早い、雨量が多いため腐敗果が多発している。</p> <p>温州ミカン：多雨により、糖の増加が抑えられ、減酸が早めに進んでいる。果実の肥大は平年並みである。</p> <p>2 台風対策</p> <p>台風の接近に対する備えを行う。</p> <p>3 病虫害</p> <p>(1)降雨が多く、日照不足のため、病害の増加が懸念される。害虫の発生は比較的少ないが、今後ナシ(青ナシ)、の黒斑病、イチジクの腐敗果等病害の発生が懸念される。</p> <p>(2)果樹カメムシ類は現在のところやや少ない発生であるが、今後は、平年並みの発生で推移すると考えられる。</p>	<p>1 生育</p> <p>(1)高温、乾燥が続く場合は、灌水、敷きわらなど乾燥防止対策を行う。過度の灌水は果実品質の低下や裂果を助長するので注意する。</p> <p>(2)カラーチャートや糖度計を活用し、果皮色、糖度、果実の硬さ等から収穫適期を判断する。</p> <p>(3)樹勢の回復、次年度に向けた貯蔵養分の蓄積を目的に枝管理や礼肥施用をする。</p> <p>2 台風対策</p> <p>枝折れ防止のため、枝の結束や支柱を強化する。防風ネットの補強に努め、葉ずれ等による傷果の発生を減らす。</p> <p>収穫可能な果実はできる限り収穫しておく（農薬使用基準に留意）。</p> <p>雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口の点検をする。台風による潮風害に備え、水源を確保しておく。</p> <p>3 病虫害</p> <p>(1)病害の発生に注意し、適切な防除に努める。</p> <p>殺菌剤の臨機防除を行う（ナシ、イチジク）。</p> <p>腐敗果を早めに処分し、病菌を媒介するショウジョウバエ類の発生を防ぐ（イチジク）</p> <p>(2)圃場をよく観察し、今後の発生に注意する。</p>
----	----------	--	---

◎防除については「病虫害発生予察情報」及び「兵庫県農薬情報システム」を参考にすること。
 ※本情報は、8月27日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（8月23日～9月22日）

[平成26年8月21日 大阪管区気象台発表]

【概要】

日本海側では天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない見込み。太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない見込み。

週別の気温は、1週目は低い確率50%。

【確率】

- 気温、降水量
及び日照時間

【近畿地方】	□低い(少ない)	□平年並	□高い(多い)	(単位:%)
気温	40	30	30	
降水量	30	40	30	
日照時間	40	40	20	

- 各週の気温経過

【近畿地方】	□低い	□平年並	□高い	(単位:%)
1週目	50	40	10	
2週目	30	40	30	
3～4週目	30	30	40	

(2) 近畿地方の向こう3か月予報（9月～11月）

[平成26年8月25日 大阪管区気象台発表]

【概要】

降水量は、近畿太平洋側で平年並みまたは少ない確率ともに40%。

9月：天気は数日の周期で変わり、気温は平年並みまたは高い確率ともに40%。

10月：天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多い見込み。降水量は、平年並みまたは少ない確率ともに40%。

11月：日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込み。太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い見込み。降水量は、太平洋側で平年並みまたは少ない確率ともに40%。

【確率】

- 気温

【近畿地方】	□低い	□平年並	□高い	(単位:%)
3か月	30	30	40	
9月	20	40	40	
10月	30	40	30	
11月	30	40	30	

- 降水量

【近畿日本海側】	□少ない	□平年並	□多い	(単位:%)
3か月	40	30	30	
9月	30	40	30	
10月	40	40	20	
11月	30	40	30	

【近畿太平洋側】	□少ない	□平年並	□多い	(単位:%)
3か月	40	40	20	
9月	30	40	30	
10月	40	40	20	
11月	40	40	20	

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1981～2010年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・ 「病害虫発生予察情報」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・ 「兵庫県農薬情報システム」
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・ 「ブラスタム・病害虫発生情報携帯サイト」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/mobile>
- ・ 「近畿中国四国地域水稻生育予測サイト」
<http://tekisaku.jp/ricediag/>



ブラスタム・病害虫発生
情報携帯サイトQRコード

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・ 兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)
- 農産班：農産担当 内線 4074
- 農産班：野菜担当 内線 4054
- 花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・ 県立農林水産技術総合センター
 - 企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
 - 農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
 - 農業技術センター 病虫害部 TEL (0790)47-1222
 - 北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
 - 淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)